

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：82105

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00652

研究課題名（和文）動物リレーモデルに基づく野生動物由来感染症拡大予測

研究課題名（英文）Prediction of the expansion of infectious diseases originated from wildlife based on animal relay models

研究代表者

岡部 貴美子（Okabe, Kimiko）

国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・研究専門員

研究者番号：20353625

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 34,800,000円

研究成果の概要（和文）：SFTSをモデルとし、マダニは野生動物にリレーされるという仮説の検証を研究目的とした。シカ密度増加はマダニ密度増加と強い相関を示す一方で、SFTSウイルスを増幅する可能性は低いことを明らかにした。またアライグマなどの食肉目がSFTSウイルスの増幅動物であった。これらのことから山地でシカ等がマダニ密度を増加させて広域に分散させ、イノシシやタヌキが里地にマダニを運び、これらのマダニがアライグマなどに寄生することで、ウイルスを人へと伝播する可能性が示唆された。しかし遺伝子解析の結果、シカとマダニの地域個体群スケールは一致しなかったことから、人為的な移動を含めたさらなる検討が必要であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際的に知られるマダニ媒介感染症の多くは、限られた地域で1種のマダニが媒介するものがほとんどであるが、SFTS媒介には複数のマダニが知られており、ウイルスの感染メカニズムは複雑であると予想された。本研究はマダニの好適宿主とウイルス増幅動物が異なることおよび、それぞれの野生動物と各マダニ種の生息景観を明らかにすることによって、SFTSのリスク低減には特定の野生動物のみの対策では不十分であり、生態系全体の適切な管理が必要であることを科学的に明らかにした。このことは直接的な感染リスク対策だけでなく、自然再生による感染症リスク抑制にも生かすことができる。

研究成果の概要（英文）：Using SFTS as a model, the research objective was to test the hypothesis that ticks are relayed to wildlife. While Sika deer density was strongly correlated with tick density, Sika deer was less likely to amplify SFTS virus. Carnivores such as raccoons were confirmed tick hosts and amplifiers of SFTS virus. These suggest that deer increases ticks in mountainous areas and disperse them over a wide area, others, such as wild boars and raccoon dogs carry the ticks to villages, and eventually wildlife, such as raccoons may transmit the virus to humans. However, genetic analysis showed that the regional population scales of deer and ticks did not match, indicating that further study, including anthropogenic movement, is needed.

研究分野：生態学

キーワード：野生動物由来感染症 マダニ媒介感染症 生態系管理 里山

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

新興感染症の75%以上を占めるとされる野生動物由来の人獣共通感染症の拡大は、生物多様性が高く未知の病原体も豊富な野生動物生息地の攪乱や分断化、都市化、温暖化などによる感染機会の拡大や病原体の突然変異の促進などが主な原因と分析される。日本ではマダニ媒介性のSFTS(重症熱性血小板減少症候群)が西日本に蔓延して、患者の死亡率は30%にも達し、感染拡大している。国内では「シカの増加によりマダニが増え、感染症が拡大した」という定説がある(Tsukada et al. 2014 など)が、シカの増加 マダニの増加 感染症拡大という時系列変化は全く検証されていない。野外生態がほとんど未知のマダニが媒介し、不特定多数の宿主動物が関与する感染症には、不確実性を許容する予測モデルによる研究アプローチが必要である。またマダニの分布や増殖は宿主との地域的な共進化を反映しており、このような基礎的知見の蓄積も必須である。

2. 研究の目的

温帯地域の野生動物由来感染症として最も重要なマダニ媒介感染症の拡大を未然に防ぐ、あるいは拡大を食い止めることを目的として、マダニおよびマダニが媒介するウイルスや細菌の分布拡大の予測と予防対策の確立に有効なモデルを構築することを目標とした。そのためにSFTSを対象感染症とし、マダニおよびウイルス宿主として野生動物を評価するとともに、主要なマダニ種の地域個体群について解析し、媒介マダニがどのように野生動物にリレーされ、人の感染拡大を引き起こすかを予測する研究を実施した。

3. 研究の方法

(1) 個体群密度と景観に基づくマダニ類の主要宿主動物の予測

中山間地のSFTS多発地域および今後SFTSの発生の可能性がある野生動物分布拡大地域で野外調査を行い、宿主動物密度、植生、マダニ天敵等の生物的環境、温湿度等の非生物的環境と、マダニの分布や密度との関係をマイクロ(林分単位、10ha以内)~マクロ(数キロ四方)スケールで明らかにした。

(2) 病理学的SFTSV感染メカニズムの予測

これまでの研究によってマダニの増殖およびウイルスの増幅が予想されている国内の主な野生動物(シカ、イノシシ、アライグマなど)について、抗体陽性や感染率の推定を行い、SFTSの観点から重要な宿主動物を抽出することとした。そのため、まず正確なSFTS抗体保有率を把握するために中和試験を実施し、ELISA吸光度のカットオフ値を決定した。次に血清からRNAを抽出し、感度の高いプライマーを用いてRT-PCRを実施し、遺伝子レベルで感染を確認した。これらに基づき、野生動物のウイルス感染経路を予測した。

(3) マダニ個体群の遺伝的構造の解明

主要なSFTS媒介マダニを全国各地で採取し、遺伝的構造から個体群の空間スケールを予測することを目標とした。(1)で得られた主要な宿主野生動物について、既存の個体群分布や密度予測等との比較し、移動分散にかかる主要な宿主を予測した。これらに基づき、これまで専門家がSFTS感染拡大はシカが主要な要因としてきたことの正しさを評価するとともに、複数の野生動物種の関与の可能性や家畜等を含む人為的影響について検討した。

(4) 宿主動物およびマダニの分布拡大予測

セルオートマトンの手法を用いて野生動物の分布拡大を予測した。さらに(1)~(3)の結果を用いて、SFTS感染拡大における野生動物分布や密度、その他の人為的要因を評価した。

4. 研究成果

(1) 個体群密度と景観に基づくマダニ類の主要宿主動物の予測

2020年までのSFTS発生件数が全国10位の和歌山県において、これまで野生動物のSFTSウイルス抗体陽性情報が蓄積されている田辺市で15地点を選び、100mのトランセクトを設置し、2020年9月-2021年8月にかけて旗ざり法によってマダニの密度を調査した。同地点で野生動物の自動撮影を行い、撮影頻度を密度指数として景観(半径500m)との関係を解析した。これらの結果を用いて冗長分析によって解析した結果、SFTS媒介種と考えられるタカサゴキラマダニでは幼虫、若虫ともにシカやイノシシを含む様々な森林性の野生動物密度との相関が示唆された(図1)。また同じく媒介種のマダニやキチマダニ若虫は外来種のアライグマやハクビシンの相関が示唆されたが、キチマダニ幼虫はタカサゴキラマダニと同様のエリアでの生息密度が高いと考えられた。マダニの若虫や幼虫には特定の野生動物群との関係は認められなかった。これらのことから、マダニの若虫や幼虫は中~小型哺乳類を宿主とし、成虫は大型哺乳類を宿主とするという傾向はどの種にも当てはまるわけではないものの、ステージごとに異なる宿主のそれぞれの移動に伴って、同一種のマダニでもステージ間では異なる場所に分布する可能性が示唆された。このことから、動物によってマダニが森林景観から里地へとリレーされる動物リレーの可能性が強く示唆された。

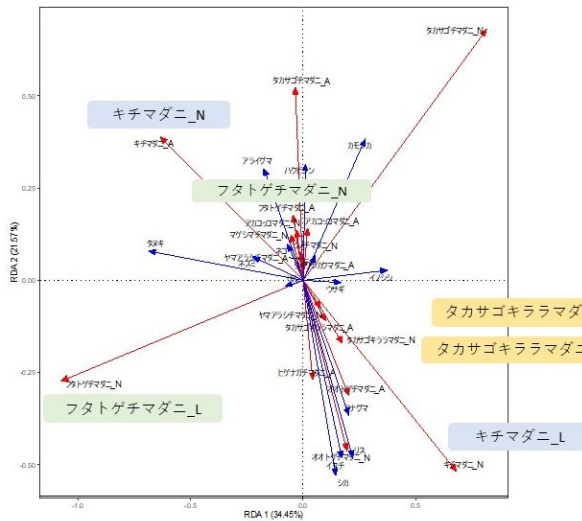


図1. 宿主動物とマダニ各ステージとの関係 (冗長性分析)
 図中の枠無しのステージは採集時、色付き枠で示したステージは、宿主を利用したステージを示す。A:成虫、N:若虫、L:幼虫

SFTS の発生にはシカの関与が予想されていることから、SFTS が発生していない栃木県と茨城県の森林地帯で、和歌山県と同じ手法で、野生動物とマダニの密度を調査した。その結果、シカが未定着の茨城県 (2019 年 4-11 月) のマダニ密度数は、シカが高密度の栃木県 (2018 年 4-11 月、日光、那須地域) の 1/10 以下であった。また栃木県では、いずれも既存の調査によって SFTSV が検出されているキチマダニ、ヒゲナガチマダニ、オオトゲチマダニが優先したが、いずれのマダニも大型哺乳類密度 (撮影頻度) 特にシカとの相関が検出された (図 2)。オオトゲチマダニとキチマダニでは、タヌキの密度との相関が示された。栃木県内の 12 地点では、各調査地点におけるマダニの群集構造を多変量解析 (NMDS) したところ、群集構造は地域性 (各地点の近さ) よりもシカ密度によって規定される可能性が示唆された。これらのことから旗ざり調査によって得られるマダニ種においては、シカが最も重要な野生動物宿主の 1 種であることが明らかになった。しかし調査を実施した関東地方の森林地帯では、西日本とは異なり、人の刺咬害が多いタカサゴキララマダニやフタトゲチマダニの密度増加への関与は今のところ不明である。したがって主要宿主動物の解明については、今後、里地を含めた調査を追加してゆく必要がある。

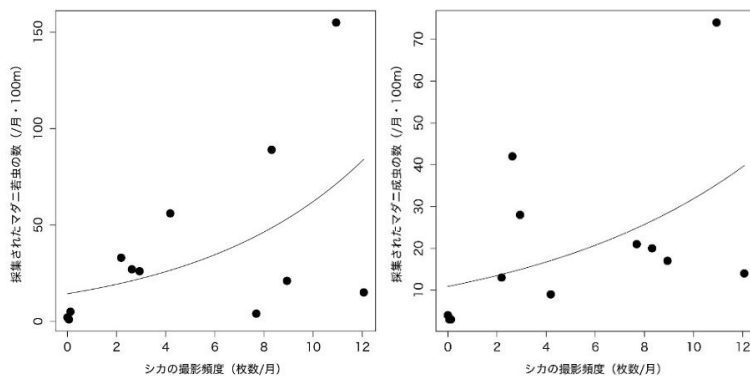


図 2. 栃木県の 12 サイトにおけるシカ撮影頻度とマダニ類の採集数。

栃木県の日光、那須地域の森林地帯では、マイクロスケール (林分単位) のマダニ密度を評価するために、林内、林縁、林外の林道上でマダニ密度調査を行った。その結果、マダニ成虫および若虫密度は林縁で最も高く、植被率との関係が示唆された (図 3)。通常、林縁部は野生動物の出現種も多様であることから (McKinney 2008 ほか) これらの複合的な影響によるものと考えられた。林縁部を好んで利用する野生動物とマダニとの関係性を解明することで、森林から里地へマダニをリレーする主要動物が明らかになる可能性が示された。

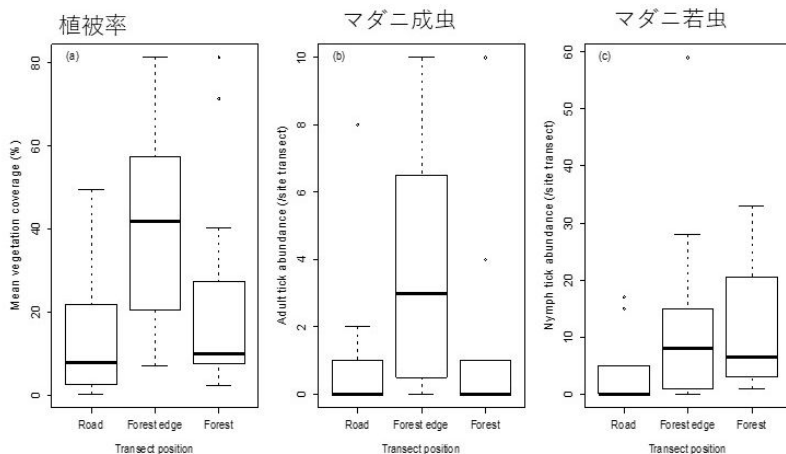


図3. 栃木県の12サイトにおける植被率およびマダニ採集数。各サイトに林道上、林縁、林内の3本のトランセクトを設置してマダニ類を採集し、比較した。

(2) 病理学的 SFTSV 感染メカニズムの予測

SFTS ウイルス (SFTSV) 研究蓄積を有する和歌山県田辺市をモデル地域として、SFTSV が蔓延し流行期にある 2017 年 4 月以降のこの地域における各種動物の抗 SFTSV 抗体保有率とウイルス遺伝子検出率に関して比較した。アライグマ (抗体 2021 年 261 頭、遺伝子 2017 年-2018 年、2021 年 606 頭)、タヌキ (2017 年-2021 年、105 頭)、アナグマ (2017 年-2021 年、241 頭)、ハクビシン (2017 年-2021 年、190 頭)、サル (2017 年-2021 年、98 頭)、シカ (2020 年-2021 年、抗体 340 頭、遺伝子 330 頭)、イノシシ (2020 年-2021 年、抗体 348 頭、遺伝子 420 頭) の中和抗体保有率と遺伝子検出率を比較した結果、アライグマにおいては中和抗体保有率 32.6%、遺伝子保有率 1.8%、タヌキは 41.0%と 2.9%、アナグマは 51.0%と 1.2%、ハクビシンは 46.3%と 2.1%、サルは 22%と 1%、シカは 57.4%と 0%、イノシシは 56.9%と 0.2%であることが明らかとなった。各種動物の抗 SFTSV 抗体保有率と SFTSV 遺伝子検出率をまとめた結果、抗 SFTSV 抗体保有率はすべての動物で高いのに対して、SFTSV 遺伝子検出率はアライグマ、タヌキ、アナグマ、ハクビシンでは 1%以上であったが、シカとイノシシは非常に低いことが明らかとなった。このことは、中国で報告されているような羊、山羊、牛などの反芻獣などよりも、日本では食肉目の動物が SFTSV に感染してウイルス血症になり、吸血したマダニにウイルスを感染させる宿主となっていることが示された。しかし、シカやイノシシはほとんどウイルス血症になっていないが、マダニに吸血させマダニを増やすための吸血源、あるいはマダニを体表につけてマダニを拡散させる動物としては重要であると考えられる。

千葉県畜産協会の協力を得て、イノシシとシカの抗 SFTSV 抗体保有率の調査を 2014 年から 2019 年にかけて実施してきた。更に、2021 年には平良らが独自に回収したイノシシとシカに加えてそれ以外の動物、キョン、サル、アライグマ、ハクビシン、タヌキにおける中和抗体保有状況の調査を実施した (図 4)。その結果、2014 年にはイノシシとシカにおいて抗 SFTSV 抗体保有動物は存在していなかったが、2015 年にシカが、2017 年にはイノシシにおいて抗体保有動物が発見された。2021 年に平良らは 2017 年に千葉県で SFTS 患者が発生していたことを報告している。それと一致するようにシカとイノシシの抗体保有率は上昇していることから、野生動物での蔓延が、ヒトへの感染リスクの上昇と一致していることを再度証明する結果となった。

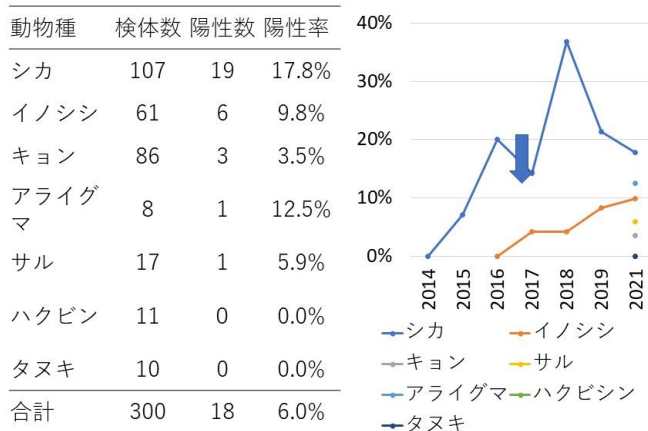


図4. 千葉県における動物抗体陽性率と2017年の患者発生(太青矢印)

(3) マダニ個体群の遺伝的構造の解明

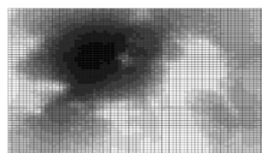
マダニ個体群スケールを明らかにするため、全国 118 地点で 546 サンプルを入手した。これらについて DNA バーコーディング等の手法で同定を試みたところ、DNA による同定は一部の種で可能だったが、形態による分類とミトコンドリア DNA の関係性に問題点が見つかった。また遺伝子解析によって、形態が類似する種の分離が可能になった結果、従来知られている分布域よりも広域に分布している種があることが明らかになった（詳細は論文執筆中）。

SFTSV 媒介上最も重要とされるフタトゲチマダニについては、235 個体について解析し、複数のハプロタイプを検出した。しかしハプロタイプの地理的分布に明確な境界線は見られなかった。またニホンジカの地理的分布に依存する個体群は、認められなかったが、分布拡大における人為的影響が示唆された（詳細は論文準備中）。

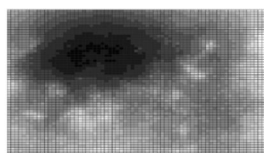
(4) 宿主動物およびマダニの分布拡大予測

セル・オートマトンの手法を用いて、シカの分布拡大を予測した。栃木県の景観およびシカ分布の情報を用い、パラメータを植生指標 (KNDVI) と景観構造として予測精度を比較したところ、KNDVI は季節的なシカの生息の予測精度が高かった一方で、景観構造は季節によらずシカの生息を予測できたものの精度そのものは低かった。これらのことから景観の和集合が予測精度のパフォーマンスが最も高いことが分かった。したがって下層植生が繁茂する季節では、植生と景観が分布拡大要因となっていると推測された。

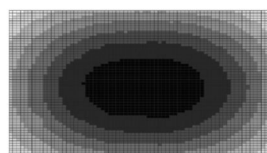
(a) May by kNDVI model



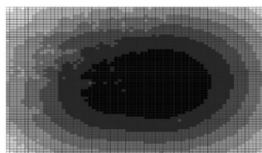
(b) July by kNDVI model



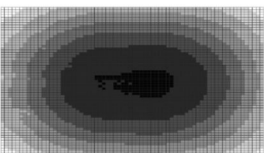
(c) August by OR model



(d) September by landscape model



(e) October by OR model



(f) November by OR model

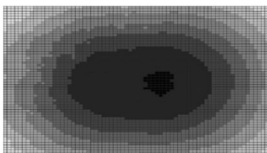


図 6 . シミュレーション結果の図 . 濃い色ほどシカの存在確率が高いことを示す。

一方でイノシシについては、分布拡大速度と拡大経路が明確にできなかったことから、セル・オートマトン手法は適切ではないことも明らかとなった。

(1) ~ (4) の結果から、シカやイノシシなどの大型野生動物が地域的にマダニ密度を増加させるが、特にシカは植生が連続する地域にマダニを広域に分布拡大させる可能性が明らかとなった。一方でシカは SFTSV の増幅動物ではなかったことから、シカに寄生したマダニが病原体を維持し続けるか、あるいはシカによって増えたマダニが病原体を維持したまま、里山景観に依存する食肉目等の動物に再寄生することによって、マダニと病原体が里地へ広がっていったと推測された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 16件 / うちオープンアクセス 36件）

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Osawa Takeshi, Tsutsumida Narumasa, Iijima Hayato, Okabe Kimiko | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Prediction of the visit and occupy of the sika deer (<i>Cervus nippon</i>) during the summer season using a virtual ecological approach | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Scientific Reports | 6. 最初と最後の頁 4007 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-023-31269-5 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 TRAN Ngo T.B., SHIMODA Hiroshi, MIZUNO Junko, ISHIJIMA Keita, YONEMITSU Kenzo, MINAMI Shohei, Supriyono, KURODA Yudai, TATEMOTO Kango, MENDOZA Milagros V., TAKANO Ai, MUTO Masahiko, ISAWA Haruhiko, SAWABE Kyoko, HAYASAKA Daisuke, MAEDA Ken | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Epidemiological study of Kabuto Mountain virus, a novel uukuvirus, in Japan | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 82 ~ 89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.21-0577 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Doi Kandai, Tokuyoshi Mikuni, Morishima Kaori, Kogi Kazunobu, Watari Yuya | 4. 巻 47 |
| 2. 論文標題 Differential Tick-Infestation Rate between <i>Rattus norvegicus</i> and <i>R. rattus</i> , with the First Records of the Ixodid Tick <i>Ixodes granulatus</i> and Its Infestation in Rodents, Free-Ranging Cats, and Humans from Mikura-Shima Island, Japan | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Mammal Study | 6. 最初と最後の頁 275-282 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3106/ms2022-0022 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Iijima Hayato, Watari Yuya, Furukawa Takuya, Okabe Kimiko | 4. 巻 59 |
| 2. 論文標題 Importance of Host Abundance and Microhabitat in Tick Abundance | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Medical Entomology | 6. 最初と最後の頁 2110 ~ 2119 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jme/tjac140 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Watari Yuya, Morishima Kaori, Doi Kandai, Nagata Junco, Suzuki Kei K | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 First tick fauna investigation on Akune-Oshima Island, Kagoshima Prefecture, Japan, with a record of <i>Haemaphysalis longicornis</i> ; | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of the Acarological Society of Japan | 6. 最初と最後の頁 89 ~ 92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2300/acari.31.89 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Okabe Kimiko, Goka Koichi, Iijima Hayato, Watari Yuya, Yamauchi Takeo | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 Challenges of integrated management in tick-borne zoonosis control | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of the Acarological Society of Japan | 6. 最初と最後の頁 49 ~ 65 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2300/acari.31.49 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 SUZUKI Kei K, DOI Kandai, MORISHIMA Kaori, YAMAGAWA Hiromi, MORI Taiki, WATARI Yuya, OKABE Kimiko | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 Preliminary research on the relationship between tick and deer abundance on Tsushima Islands, western Japan | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of the Acarological Society of Japan | 6. 最初と最後の頁 67 ~ 73 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2300/acari.31.67 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 森嶋 佳織、亘 悠哉、飯島 勇人 | 4. 巻 63 |
| 2. 論文標題 房総半島で撮影された特定外来生物キョン <i>Muntiacus reevesi</i> のマウンティング行動 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 哺乳類科学 | 6. 最初と最後の頁 2 ~ 2 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11238/mammalianscience.63.2 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Tran Ngo T.B., Shimoda Hiroshi, Ishijima Keita, Yonemitsu Kenzo, Minami Shohei, Kuroda Yudai, Tatemoto Kango, Mendoza Milagros V., Kuwata Ryusei, Takano Ai, Muto Masahiko, Sawabe Kyoko, Isawa Haruhiko, Hayasaka Daisuke, Maeda Ken, Supriyono | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 Zoonotic Infection with Oz Virus, a Novel Thogotovirus | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Emerging Infectious Diseases | 6. 最初と最後の頁 436 ~ 439 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3201/eid2802.211270 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Kirino Yumi, Yamanaka Atsushi, Ishijima Keita, Tatemoto Kango, Maeda Ken, Okabayashi Tamaki | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 Retrospective study on the possibility of an SFTS outbreak associated with undiagnosed febrile illness in veterinary professionals and a family with sick dogs in 2003 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Infection and Chemotherapy | 6. 最初と最後の頁 753 ~ 756 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jiac.2022.02.011 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Miyuchi Atsushi, Sada Ken-Ei, Yamamoto Hirota, Iriyoshi Hiroki, Touyama Yuji, Hashimoto Daisuke, Nojima Shigeru, Yamanaka Shingo, Ishijima Keita, Maeda Ken, Kawamura Masafumi | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Suspected Transmission of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus from a Cat to a Veterinarian by a Single Contact: A Case Report | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 223 ~ 223 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v14020223 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Oshima Hiroaki, Okumura Hironobu, Maeda Ken, Ishijima Keita, Yoshikawa Tomoki, Kurosu Takeshi, Fukushi Shuetsu, Shimojima Masayuki, Saijo Masayuki | 4. 巻 75 |
| 2. 論文標題 A Patient with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome (SFTS) Infected from a Sick Dog with SFTS Virus Infection | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Japanese Journal of Infectious Diseases | 6. 最初と最後の頁 423 ~ 426 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2021.796 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 IRIE Mitsuhiro, MIYOSHI Takuma, HIRAMOTO Akira, HIRATA Masahiko, TAKANOSU Masamine, PARK Eun-Sil, MAEDA Ken | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Diagnosis of severe fever with thrombocytopenia syndrome (SFTS) in a cat with clinical findings resembling lymphoma | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 675 ~ 679 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.21-0519 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 TATEMOTO Kango, VIRHUEZ MENDOZA Milagros, ISHIJIMA Keita, KURODA Yudai, INOUE Yusuke, TAIRA Masakatsu, KUWATA Ryusei, TAKANO Ai, MORIKAWA Shigeru, SHIMODA Hiroshi | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Risk assessment of infection with severe fever with thrombocytopenia syndrome based on a 10-year serosurveillance in Yamaguchi Prefecture virus | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 1142 ~ 1145 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.22-0255 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 TATEMOTO Kango, ISHIJIMA Keita, KURODA Yudai, MENDOZA Milagros Virhuez, INOUE Yusuke, PARK Eunsil, SHIMODA Hiroshi, SATO Yuko, SUZUKI Tadaki, SUZUKI Kazuo, MORIKAWA Shigeru, MAEDA Ken | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Roles of raccoons in the transmission cycle of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 982 ~ 991 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.22-0236 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------------|
| 1. 著者名 MENDOZA Milagros Virhuez, YONEMITSU Kenzo, ISHIJIMA Keita, KURODA Yudai, TATEMOTO Kango, INOUE Yusuke, SHIMODA Hiroshi, KUWATA Ryusei, TAKANO Ai, SUZUKI Kazuo, MAEDA Ken | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Nationwide survey of hepatitis E virus infection among wildlife in Japan | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 992 ~ 1000 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.22-0237 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Ishijima Keita, Tatemoto Kango, Park Eunsil, Kimura Masanobu, Fujita Osamu, Taira Masakatsu, Kuroda Yudai, Mendoza Milagros Virhuez, Inoue Yusuke, Harada Michiko, Matsuu Aya, Shimoda Hiroshi, Kuwata Ryusei, Morikawa Shigeru, Maeda Ken | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Lethal Disease in Dogs Naturally Infected with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 1963 ~ 1963 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v14091963 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Matsuu Aya, Doi Kandai, Ishijima Keita, Tatemoto Kango, Koshida Yushi, Yoshida Ayako, Kiname Kohei, Iwashita Akio, Hayama Shin-ichi, Maeda Ken | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Increased Risk of Infection with Severe Fever with Thrombocytopenia Virus among Animal Populations on Tsushima Island, Japan, Including an Endangered Species, Tsushima Leopard Cats | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 2631 ~ 2631 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v14122631 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 ISHIJIMA Keita, YOKONO Kota, PARK Eunsil, TAIRA Masakatsu, TATEMOTO Kango, KURODA Yudai, MENDOZA Milagros Virhuez, INOUE Yusuke, HARADA Michiko, MATSUU Aya, MORIKAWA Shigeru, FUKUSHI Shuetsu, MAEDA Ken | 4. 巻 85 |
| 2. 論文標題 Simple and rapid detection of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus in cats by reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification (RT-LAMP) assay using a dried reagent | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Veterinary Medical Science | 6. 最初と最後の頁 329 ~ 333 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.22-0523 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Kuan Chih-Ying, Lin Tsai-Lu, Ou Shan-Chia, Chuang Shih-Te, Chan Jacky Peng-Wen, Maeda Ken et al | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 The First Nationwide Surveillance of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome in Ruminants and Wildlife in Taiwan | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 441 ~ 441 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v15020441 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Komine Hiroataka, Okabe Kimiko | 4. 巻 90 |
| 2. 論文標題 Summer collection of multiple southern species of ticks in a remote northern island in Japan and literature review of the distribution and avian hosts of ticks | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Experimental and Applied Acarology | 6. 最初と最後の頁 357 ~ 374 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10493-023-00819-x | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Sakai Yusuke, Mura Serina, Kuwabara Yuko, Kagimoto Saya, Sakurai Masashi, Morimoto Masahiro, Park Eun-sil, Shimojima Masayuki, Nagata Noriyo, Ami Yasushi, Yoshikawa Tomoki et al | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 Lethal severe fever with thrombocytopenia syndrome virus infection causes systemic germinal centre failure and massive T cell apoptosis in cats | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 Frontiers in Microbiology | 6. 最初と最後の頁 1333946 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fmicb.2023.1333946 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Ishijima Keita, Pichitraslip Thanmaporn, Naimon Nattakarn, Ploypichai Preeyaporn, Kriebkajon Benyapa, Chinarak Torntun, Sridaphan Jirasin, Kritiyakan Anamika, Prasertsincharoen Noppadol, Jittapalapong Sathaporn, Tangcham Kanate, Rerkamnuaychoke Worawut, Kuroda Yudai, Taira Masakatsu, Tatemoto Kango et al | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 High Seroprevalence of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus Infection among the Dog Population in Thailand | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 2403 ~ 2403 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v15122403 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名 Kuan Chih-Ying, Ou Shan-Chia, Chang Chao-Chin, Kao Pei-Ling, Tsai Ruei-Sheng, Rattanapanadda Porjai, Lin Tsai-Lu, Maeda Ken, Cheng Tsun-Li, Lee Ya-Jane, Chuang Shih-Te, Lin Shiun-Long, Liu Hsien-Yueh, Lin Fong-Yuan, Lin Jen-Wei, Hsu Wei-Li, Chou Chi-Chung | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 Epidemiology of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome in Dogs and Cats in Taiwan | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 2338 ~ 2338 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v15122338 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 畑孝、平良雅克、石嶋慧多、前田 健 | 4. 巻 76 |
| 2. 論文標題 杉並区の地域猫における重症熱性血小板減少症候群ウイルスに対する抗体保有状況調査の取組 地域猫の不妊去勢事業を利用したOne Health アプローチ | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本獣医師会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 262-266 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高野 愛、前田 健 | 4. 巻 152 |
| 2. 論文標題 感染を媒介する代表的な節足動物 ダニ | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本医師会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 375-378 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 前田 健 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 野生獣におけるE型肝炎、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)等の浸潤状況 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 令和4年度野生獣衛生推進体制促進事業に係る普及啓発資料「野生獣と家畜の伝染病伝播防止に向けて」 | 6. 最初と最後の頁 66-71 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 前田 健 | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 SFTS | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 月刊「CAP」 | 6. 最初と最後の頁 28-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岡部貴美子 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 生態系の視点から見たワンヘルスの進展と課題 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本知財学会誌 | 6. 最初と最後の頁 16-23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岡部貴美子 | 4. 巻 666 |
| 2. 論文標題 森林生態系と新興人獣共通感染症との関係性 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 大阪保険医雑誌 | 6. 最初と最後の頁 19-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 Park Eun-sil, Fujita Osamu, Kimura Masanobu, Hotta Akitoyo, Imaoka Koichi, Shimojima Masayuki, Saijo Masayuki, Maeda Ken, Morikawa Shigeru | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 Diagnostic system for the detection of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus RNA from suspected infected animals | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 PLOS ONE | 6. 最初と最後の頁 e0238671 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0238671 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 Tsuru M, Suzuki T, Murakami T, Matsui K, Maeda Y, Yoshikawa T, Kurosu T, Shimojima M, Shimada T, Hasegawa H, Maeda K, Morikawa S, Saijo M | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Pathological Characteristics of a Patient with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome (SFTS) Infected with SFTS Virus through a Sick Cat's Bite | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 204 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v13020204 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 Kirino Y, Ishijima K, Miura M, Nomachi T, Mazimpaka E, Sudaryatma PE, Yamanaka A, Maeda K, Sugimoto T, Saito A, Mekata H, Okabayashi T | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Seroprevalence of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus in Small-Animal Veterinarians and Nurses in the Japanese Prefecture with the Highest Case Load | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 229 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v13020229 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Sakai Y, Kuwabara Y, Ishijima K, Kagimoto S, Mura S, Tatemoto K, Kuwata R, Yonemitsu K, Minami S, Kuroda Y, Baba K, Okuda M, Shimoda H, Sakurai M, Morimoto M, Maeda K | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 Histopathological Characterization of Cases of Spontaneous Fatal Feline Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome, Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Emerg Infect Dis | 6. 最初と最後の頁 1068-1076 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3201/eid2704.204148 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Kodama F, Yamaguchi H, Park E, Tatemoto K, Sashika M, Nakao R, Terauchi Y, Mizuma K, Orba Y, Kariwa H, Hagiwara K, Okazaki K, Goto A, Komagome R, Miyoshi M, Ito T, Yamano K, Yoshii K, Funaki C, Ishizuka M, Shigeno A, Itakura Y, Bell-Sakyi L, Edagawa S, Nagasaka A, Sakoda Y, Sawa H, Maeda K, Saijo M, Matsuno K. | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 novel nairovirus associated with acute febrile illness in Hokkaido, Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Nat Commun | 6. 最初と最後の頁 5539 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-021-25857-0 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Nouda R, Minami S, Kanai Y, Kawagishi T, Nurdin JA, Yamasaki M, Kuwata R, Shimoda H, Maeda K, Kobayashi T. | 4. 巻 118 |
| 2. 論文標題 Development of an entirely plasmid-based reverse genetics system for 12-segmented double-stranded RNA viruses | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Proc Natl Acad Sci U S A | 6. 最初と最後の頁 e2105334118 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2105334118 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Kobayashi D, Kuwata R, Kimura T, Shimoda H, Fujita R, Faizah AN, Kai I, Matsumura R, Kuroda Y, Watanabe S, Kuniyoshi S, Yamauchi T, Watanabe M, Higa Y, Hayashi T, Shinomiya H, Maeda K, Kasai S, Sawabe K, Isawa H. | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Detection of Jingmenviruses in Japan with Evidence of Vertical Transmission in Ticks | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Viruses | 6. 最初と最後の頁 2547 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v13122547 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Tran NTB, Shimoda H, Mizuno J, Ishijima K, Yonemitsu K, Minami S, Supriyono, Kuroda Y, Tatemoto K, Mendoza MV, Takano A, Muto M, Isawa H, Sawabe K, Hayasaka D, Maeda K. | 4. 巻 84 |
| 2. 論文標題 Epidemiological study of Kabuto Mountain virus, a novel uukuvirus, in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 J Vet Med Sci | 6. 最初と最後の頁 82-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1292/jvms.21-0577 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 岡部貴美子、亘悠哉、飯島勇人、古川拓哉 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 人獣共通感染症と関連野生動物の“今”について考える | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 衛生動物 | 6. 最初と最後の頁 157-160 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7601/mez.71.157 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Okabe K, Shimada T, Makino S | 4. 巻 48 |
| 2. 論文標題 Preliminary life history observations of the pseudoscorpion <i>Megachernes ryugadensis</i> (Pseudoscorpiones: Chernetidae) phoretic on wood mice in Japan | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Arachnology | 6. 最初と最後の頁 155-160 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1636/0161-8202-48.2.155 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 三條場千寿、亘悠哉、松本芳嗣、宮下直 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 トキソプラズマ症 身近な人獣共通感染症の伝播サイクルとワンヘルスに基づいた対策の道筋 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 衛生動物 | 6. 最初と最後の頁 1-8 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7601/mez.72.1 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 五箇 公一 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 人獣共通感染症の生態学的アプローチ～生物多様性の観点から感染症リスクを考える | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 衛生動物 | 6. 最初と最後の頁 161-170 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7601/mez.71.161 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 Masatani T, Hayashi K, Morikawa M, Ozawa M, Kojima I, Okajima M, Takano A, Shimoda H, Maeda K, Matsuo A, Yoshida A | 4. 巻 78 |
| 2. 論文標題 Molecular detection of tick-borne protozoan parasites in sika deer (<i>Cervus nippon</i>) from western regions of Japan | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Parasitology International, | 6. 最初と最後の頁 102161 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parint.2020.102161 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|------------------------|
| 1. 著者名 Park ES, Fujita O, Kimura M, Hotta A, Imaoka K, Shimojima M, Saijo M, Maeda K, Morikawa S | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 Diagnostic system for the detection of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus RNA from suspected infected animals | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 PLoS One | 6. 最初と最後の頁 e0238671 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0238671 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計74件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 7件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 森嶋佳織、小峰浩隆、岡部貴美子、巨悠哉、飯島勇人 |
| 2. 発表標題 マダニが好む動物は？ 文献調査からみた種ごとの宿主嗜好性 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、岡部貴美子、巨悠哉、飯島勇人 |
| 2. 発表標題 いつ、どこに、どんなマダニが多いのか？ 季節、景観、野生動物との関係 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 巨悠哉 |
| 2. 発表標題 外来種問題の盲点：ワンヘルスの観点からの再定義 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 五箇公一 |
| 2. 発表標題 ワンヘルスにおける生態学者のチャレンジ 生態系、動物、ヒトとのつながりを考える |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会シンポジウム |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K.K. SUZUKI, K. DOI, K. MORISHIMA, H. YAMAGAWA, T. MORI, Y. WATARI, K. OKABE |
| 2. 発表標題 The relationship between Haemaphysalis longicornis and sika deer abundance on Tsushima Islands, Japan |
| 3. 学会等名 International Congress of Acarology (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K. OKABE, H. IIJIMA, T. FURUKAWA, Y. WATARI, K. MORISHIMA |
| 2. 発表標題 Tick richness may be correlated with abundance of a specific host |
| 3. 学会等名 International Congress of Acarology (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K. DOI, K.K. SUZUKI, K. MORISHIMA, H. YAMAGAWA, T. MORI, Y. WATARI, K. OKABE |
| 2. 発表標題 The relationship between Haemaphysalis longicornis and sika deer abundance on Tsushima Islands, Japan |
| 3. 学会等名 Asian Society of Conservation Medicine Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡部貴美子、牧野俊一、島田卓哉 |
| 2. 発表標題 マダニの捕食者オオヤドリカニムシーその天敵としての評価ー |
| 3. 学会等名 日本ダニ学会大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森嶋佳織、土井寛大、立本完吾、山藤栄一郎、浅野玄、巨悠哉 |
| 2. 発表標題 野生動物とともに拡がるマダニ媒介感染症の脅威とワンヘルスアプローチ |
| 3. 学会等名 日本哺乳類学会大会自由集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 森嶋佳織、飯島勇人、巨悠哉、岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 千葉県の野生動物の分布がマダニの種組成に与える影響 |
| 3. 学会等名 第70回日本生態学会大会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 東北地方の離島における南方系マダニ類の確認 |
| 3. 学会等名 第70回日本生態学会大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 新興感染症のワンヘルスアプローチ |
| 3. 学会等名 第113回日本病理学会総会 シンポジウム1 (招待講演) |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 動物由来感染症の現状 |
| 3. 学会等名 ベストコントロールフォーラム千葉大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 人獣共通感染症：ワンヘルスの視点から |
| 3. 学会等名 令和5年度第41回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 - シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 野生動物が媒介する人獣共通感染症 |
| 3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 動物由来感染症とOne Healthアプローチ |
| 3. 学会等名 第32回感染研シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 日本国内のマダニから検出されるウイルス |
| 3. 学会等名 第97回日本感染症学会学術講演会 シンポジウム7(招待講演) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松鶴 彩、立本完吾、石嶋慧多、西野綾乃、前田 健 |
| 2. 発表標題 動物におけるOzウイルスに対する抗体保有状況についての調査 |
| 3. 学会等名 第23回人と動物の共通感染症研究会学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 立本 完吾、石嶋 慧多、朴 ウンシル、平良 雅克、松鶴 彩、黒田 雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上 雄介、原田 倫子、西野 綾乃、山本 つかさ、土井 寛大、森嶋 佳織、小峰 浩隆、亘 悠哉、島田 卓哉、鈴木 和男、前田 健 |
| 2. 発表標題 野生動物の重症熱性血小板減少症候群ウイルスの感染状況：動物種間比較 |
| 3. 学会等名 第70回日本ウイルス学会学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 児島 一州、朴 ウンシル、紀田 泉、有泉 拓馬、Kovba Anastasiia、水間 奎太、尾針 由真、大場 靖子、澤 洋文、松野 啓太、前田 健 |
| 2. 発表標題 重症熱性血小板減少症候群ウイルスの犬への実験感染 |
| 3. 学会等名 第70回日本ウイルス学会学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西野 綾乃、朴 ウンシル、立本 完吾、井上 雄介、石嶋 慧多、黒田 雄大、Milagros Virhuez Mendoza、原田 倫子、山本 つかさ、松村 凌、小林 大介、伊澤 晴彦、葛西 真治、松野 啓太、前田 健 |
| 2. 発表標題 マウスにおける3種類のオルソナイロウイルスの病原性の検討 |
| 3. 学会等名 第70回日本ウイルス学会学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西野綾乃、立本完吾、井上雄介、石嶋慧多、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、原田倫子、朴ウンシル、下田宙、高野愛、仲村昇、森本元、松野啓太、前田健 |
| 2. 発表標題 渡り鳥によるマダニ媒介ウイルスの拡散 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 江尻寛子、林昌宏、小林大介、藤田龍介、室田勝功、欽田龍星、下田宙、前田健、木村俊也、金山敦宏、加來浩器、西條政幸、四宮博人、澤邊京子、伊澤晴彦、葛西真治 |
| 2. 発表標題 オズウイルス発見の経緯と今後の衛生昆虫学的課題 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 松鶴彩、立本完吾、石嶋慧多、西野綾乃、前田健 |
| 2. 発表標題 動物におけるOzウイルスの感染状況調査 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 立本完吾、石嶋慧多、朴ウンシル、平良雅克、松鷄彩、黒田雄大、ミラグロスピルベスメンドーサ、井上雄介、原田倫子、西野綾乃、山本つかさ、鈴木和男、前田健 |
| 2. 発表標題 SFTSV感染による野生動物の死亡例 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石嶋慧多、平良雅克、立本完吾、朴ウンシル、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上雄介、原田倫子、西野綾乃、山本つかさ、森川茂、松鷄彩、前田健 |
| 2. 発表標題 猫及び犬におけるSFTS症例の概要 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 児島一州、朴ウンシル、紀田泉、有泉拓馬、Anastasiia Kovba、水間奎太、尾針由真、大場靖子、澤洋文、坂井祐介、永田典代、鈴木忠樹、松野啓太、前田健 |
| 2. 発表標題 SFTSウイルスを用いた犬への感染実験 |
| 3. 学会等名 第5回SFTS研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 東北地方の離島における南方系マダニ類の確認 |
| 3. 学会等名 ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K. OKABE |
| 2. 発表標題 Ecological approaches to emerging infectious diseases originated from wildlife |
| 3. 学会等名 The 9th congress of East Asian Federation of Ecological Societies (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K. OKABE |
| 2. 発表標題 Forest degradation and emerging zoonoses |
| 3. 学会等名 The 25th Congress of the Asia-Pacific Respirology (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡部貴美子、亘悠哉、飯島勇人、小峰浩隆、五箇公一、坂本佳子、前田健 |
| 2. 発表標題 SFTSをモデルとしたマダニ媒介感染症対策における生態学的アプローチ |
| 3. 学会等名 ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、岡部貴美子、亘悠哉、飯島勇人 |
| 2. 発表標題 どこにどんなマダニが多いのか？環境と野生動物との関係 |
| 3. 学会等名 ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 野生動物の関与とワンヘルスアプローチのあり方 |
| 3. 学会等名 日本哺乳類学会2021大会自由集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 飯島勇人 |
| 2. 発表標題 人、野生動物と微環境が決めるマダニの数 |
| 3. 学会等名 日本哺乳類学会2021大会自由集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 巨悠哉 |
| 2. 発表標題 餌付けが駆動するネコ・ネズミのトキソプラズマ伝播サイクル |
| 3. 学会等名 日本哺乳類学会2021大会自由集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 ワンヘルスが取り組むべき生態系アプローチ |
| 3. 学会等名 日本哺乳類学会2021大会自由集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 森嶋佳織、小峰浩隆、岡部貴美子、亘悠哉、飯島勇人 |
| 2. 発表標題 マダニが好む動物は？ 文献調査からみた種ごとの宿主嗜好性 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、岡部貴美子、亘悠哉、飯島勇人 |
| 2. 発表標題 いつ、どこに、どんなマダニが多いのか？ 季節、景観、野生動物との関係 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 亘悠哉 |
| 2. 発表標題 外来種問題の盲点：ワンヘルスの観点からの再定義 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 亘悠哉 |
| 2. 発表標題 外来種問題の盲点：ワンヘルスの観点からの再定義 |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 五箇公一 |
| 2. 発表標題 国立環境研究所における外来生物・農薬・感染症リスク研究最前線 |
| 3. 学会等名 日本昆虫学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 五箇公一 |
| 2. 発表標題 シンポジウム：ワンヘルスにおける生態学者のチャレンジ 生態系、動物、ヒトとのつながりを考える |
| 3. 学会等名 第69回日本生態学会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 環境変化による感染症発生 |
| 3. 学会等名 第2回生科連 生物多様性シンポジウム「気候変動が生物多様性に与える脅威 地球はどのくらい危機的状況かー」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 SARS-CoV-2の起源を考える |
| 3. 学会等名 第20回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会シンポジウム 「COVID-19のウイルスの起源、ワクチンとバイオセーフティ」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 K. Maeda |
| 2. 発表標題 Outbreak and control strategy for transboundary animal and zoonotic diseases in Asia |
| 3. 学会等名 “One health approach to reduce the risks by zoonoses.” NARO International Symposium 2021 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石嶋慧多、朴ウンシル、立本完吾、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上雄介、原田倫子、下田宙、松鶴彩、森川茂、前田健 |
| 2. 発表標題 国内のネコ及びイヌ由来SFTSウイルスの分離と系統解析 |
| 3. 学会等名 第68回日本ウイルス学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 動物由来感染症を知る：SFTSからCOVID-19まで) |
| 3. 学会等名 Infection and Immunity Research Symposium XII (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 SFTS：犬猫と獣医師の病気 |
| 3. 学会等名 令和3年度獣医学術九州地区学会 宮崎県獣医師会企画・三学会共催シンポジウム |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 適度な距離を！-ペットを守り、自分を守るために- |
| 3. 学会等名 2021年動物愛護週間中央行事2021どうぶつ愛護オンラインシンポジウム |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石嶋慧多、立本完吾、朴ウンシル、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上雄介、原田倫子、森川 茂、前田健 |
| 2. 発表標題 イヌにおける重症熱性血小板減少症候群の診断 |
| 3. 学会等名 第3回SFTS 研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 立本完吾、石嶋慧多、朴ウンシル、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、原田倫子、井上雄介、Ngo Thuy Bao Tran、下田哲也、河合康洋、鈴木忠樹、前田 健 |
| 2. 発表標題 SFTS を発症した妊娠ネコにおける流産・死産 |
| 3. 学会等名 第3回SFTS 研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 朴ウンシル、立本完吾、石嶋慧多、下島昌幸、吉河智城、宇田晶彦、西條政幸、森川茂、前田健 |
| 2. 発表標題 SFTSV 株間のマウスにおける病原性の比較 |
| 3. 学会等名 第3回SFTS 研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平良雅克、追立のり子、西嶋陽奈、太田茉里、佐藤重紀、高松由基、吉河智城、黒須剛、下島昌幸、立本完吾、石嶋慧多、前田健、西條政幸 |
| 2. 発表標題 関東地方で初めて感染が確認された重症熱性血小板減少症候群の1例 |
| 3. 学会等名 第3回SFTS 研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松野啓太、児玉文宏、山口宏樹、Eunsil Park、立本完吾、前田健、西條政幸 |
| 2. 発表標題 エゾウイルス感染症の診断法開発と疫学調査 |
| 3. 学会等名 第3回SFTS 研究会・学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 立本完吾、朴ウンシル、石嶋慧多、黒田雄大、Virhuez Mendoza Milagros、原田倫子、井上雄介、Tran Ngo Thuy Bao、河合康洋、鈴木忠樹、下田哲也、前田 健 |
| 2. 発表標題 SFTSV感染に起因するネコの流産・死産 |
| 3. 学会等名 第164回日本獣医学会学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 動物から学ぶ感染症 |
| 3. 学会等名 One Health Research Centerキックオフシンポジウム(招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Mazimpaka Eugene、目堅博久、谷英樹、前田健、石嶋慧多、桐野有美、齊藤暁、岡林環樹 |
| 2. 発表標題 A high-throughput neutralizing antibody test for SFTS diagnosis |
| 3. 学会等名 第164回日本獣医学会学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 下田 宙、南 昌平、立本完吾、井上雄介、水野純子、稲垣佳子、仲村 昇、出口智広、高野 愛、早坂大輔、前田 健 |
| 2. 発表標題 北海道に飛来した渡り鳥におけるマダニの寄生状況 |
| 3. 学会等名 第73回日本衛生動物学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石嶋慧多、朴ウンシル、立本完吾、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上雄介、原田倫子、鎌田龍星、高野 愛、下田 宙、松鶴彩、森川 茂、前田 健 |
| 2. 発表標題 ネコ・イヌ由来 SFTS ウイルスの系統解析及び地理的分布 |
| 3. 学会等名 第73回日本衛生動物学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 立本完吾、石嶋慧多、朴ウンシル、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、原田倫子、井上雄介、Ngo thuy bao tran、鎌田龍星、高野 愛、下田 宙、前田 健 |
| 2. 発表標題 野生動物における SFTS の血清疫学調査: ウイルス中和試験の重要性 |
| 3. 学会等名 第73回日本衛生動物学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石嶋慧多、朴ウンシル、立本完吾、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、井上雄介、原田倫子、鎌田龍星、高野 愛、下田 宙、松鶴彩、森川 茂、前田 健 |
| 2. 発表標題 ネコ・イヌ由来SFTSウイルスの系統解析及び地理的分布 |
| 3. 学会等名 第37回日本衛生動物学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 立本完吾、石嶋慧多、朴ウンシル、黒田雄大、Milagros Virhuez Mendoza、原田倫子、井上雄介、Ngo Thuy Bao Tran、鎌田龍星、高野愛、下田 宙、前田 健 |
| 2. 発表標題 野生動物におけるSFTSの血清疫学調査：ウイルス中和試験の重要性 |
| 3. 学会等名 第37回日本衛生動物学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小峰浩隆、亘悠哉、飯島勇人、岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 SFTS流行地域における、媒介マダニ-宿主動物-土地利用の関係 |
| 3. 学会等名 日本生態学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 野生動物由来感染症の統合的管理の試み |
| 3. 学会等名 “ One Health ” 国際フォーラム2021 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 飯島勇人、小峰浩隆、巨悠哉、岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 茨城県内の栃木県・福島県境における哺乳類の出没状況 |
| 3. 学会等名 とちぎ野生動物研究交流会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 五箇公一 |
| 2. 発表標題 人獣共通感染症の生態学的アプローチ-生物多様性の観点から感染症リスクを考える |
| 3. 学会等名 日本環境共生学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 五箇公一 |
| 2. 発表標題 国立環境研究所における外来生物・農薬・感染症リスク研究最前線 |
| 3. 学会等名 日本生態学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 坂本佳子，五箇公一，巨悠哉，飯島勇人，岡部貴美子 |
| 2. 発表標題 ダニ媒介性感染症に関する日本産マダニ類の分布および遺伝的多様性 |
| 3. 学会等名 日本応用動物昆虫学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 SFTS の病態：マダニ以外の感染経路 |
| 3. 学会等名 日本感染症学会学術集会講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 伴侶動物と楽しく暮らしながら乗り越えよう |
| 3. 学会等名 日本臨床獣医学フォーラム新興感染症シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 SFTSについて考える |
| 3. 学会等名 人と動物の共通感染症研究会・学術集会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 野生動物を介したマダニ媒介感染症の拡大 |
| 3. 学会等名 “ One Health ” 国際フォーラム2021（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 新興感染症のワンヘルスアプローチ |
| 3. 学会等名 第113回日本病理学会総会（招待講演） |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 前田 健 |
| 2. 発表標題 動物由来感染症の現状 |
| 3. 学会等名 ベストコントロールフォーラム千葉大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2024年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 岡部貴美子（日本森林学会編） | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 694 |
| 3. 書名 森林学の百科事典（うち「人獣共通感染症」） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 前田健（津田良夫・安居院宣昭・谷川力・夏秋優・林利彦・平林公男・山内健生 編） | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 朝倉書店 | 5. 総ページ数 429 |
| 3. 書名 衛生動物の事典（うち「ズーノーシス（人獣共通感染症）」） | |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石田 卓夫 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 緑書房 | 5. 総ページ数 496 |
| 3. 書名 犬の内科診療 Part 2 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 巨 悠哉 (Watari Yuya) (10760704) | 国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員 等 (82105) | |
| 研究分担者 | 飯島 勇人 (Iijima Hayato) (30526702) | 国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員 等 (82105) | |
| 研究分担者 | 大澤 剛士 (Osawa Takeshi) (40554332) | 東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授 (22604) | |
| 研究分担者 | 坂本 佳子 (Sakamoto Yoshiko) (80714196) | 国立研究開発法人国立環境研究所・生物多様性領域・主任研究員 (82101) | |
| 研究分担者 | 前田 健 (Maeda Ken) (90284273) | 国立感染症研究所・獣医科学部・部長 (82603) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---|---|----|
| 研究 分 担 者 | 五箇 公一 (Goka Kouichi) (90300847) | 国立研究開発法人国立環境研究所・生物多様性領域・室長 (82101) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |